西郷隆盛書簡（得（とく）　藤長（とうちょう）宛）

明治二年（一八六九）三月二〇日付

《釈文》

一筆啓達いたし候、
愈々無御障御勤務之筈
珍重存候、毎々書状并ニ
着物御贈り給はり忝存申候、
拙者ニも昨春より江戸表へ
致出師、其後越後表へも
差越候処、兵隊中之
憤戦を以而全く御勝利
相成、以御蔭命を給帰り、
昨年霜月初旬ニ
着致申候、御安慮可給候、
もふ此節は御暇願上、
隠居之筈ニて暫時御許
容相成居候処、又々是非ニ
相勤旨御沙汰承知仕、
無拠去月廿五日参政
被仰付相勤候間、一両年は
不相勤候ては相済間敷、
当春共は其許ニ下島
可致筈之処、案外之仕合
如何共致方無之候、遺子共へは
始終御丁寧成給り候由、
御礼申入候、誠ニ多忙中ニて
不能細事、単ニ為可得
貴意如此御座候、以上、

三月廿日認　西郷吉之助

藤長様

尚々御家中へも宜敷御伝声可給候、
追而故友之方々へは御序宜敷
御鶴声可給候、将又愚弟
吉次郎ニは越後表ニ於而戦死
いたし残念此事ニ御座候、外之
両弟は皆々無難罷帰り仕合之次第ニ候、
拙者第一先ニ戦死可致処に小弟を
先立せ涕泣いたすのみニ御座候、
御悲察可給候、

《現代語訳》

一筆手紙を送ります。
益々何事もなくご勤務されて
いることと存じます。
何度も手紙と着物をお贈り頂
き大変ありがとうございます。
私も昨春より江戸へ出陣いた
し、その後新潟へも行きまし

たところ、兵隊達の奮戦によって完全な勝利となりました。おかげ様で生きて帰ることができました。

昨年一一月初旬に（鹿児島に）到着いたしました。ご安心ください。

もうこの頃はお暇を願い、隠居するつもりで、暫時お許しを頂いておりましたところ、またまた是非とも出仕するよう命じられ、承知いたしました。止むを得ないことです。

先月二五日、参政に命じられ勤めております。一両年は勤めなくては申し訳ないと思います。

この春には奄美大島へ行くつもりでしたが、思いもよらないめぐり合わせで、いかんとも致し方もありません。島に残してきた子供ら（菊次郎と菊草）へはいつもご丁寧にお世話を頂き、お礼申し上げます。

誠に多忙にて細事ができませんが、貴方様にはお分かりいただけることと存じます。それでは失礼いたします。

三月二〇日書　西郷吉之助

藤長様

追伸、ご家族様へもよろしくお伝えください。

追って島の方々へはおついでによろしくお伝えください。

さて、愚弟吉次郎は新潟にて戦死いたし、残念なことでございます。他の両弟（従道と小兵衛）は共に無事に帰り、幸せなことでした。

私がまず戦死いたすべきところ、弟を先立たせて涙を流して泣いているばかりでございます。この悲しみをお察し頂きたく存じます。